

# 第38回

# うつのみやこども賞だより

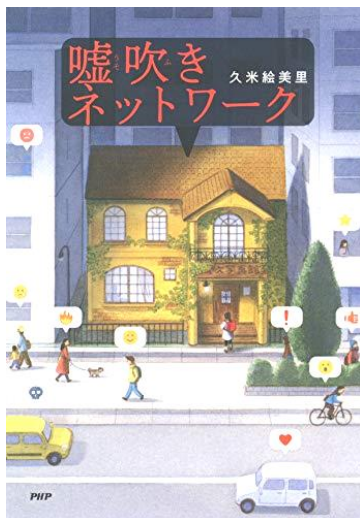
## 令和3年度 8回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### 《今月選ばれた本》

### 『嘘吹きネットワーク』

久米 絵美里／著（PHP研究所）



令和4年1月9日

読めば  
愉快だ  
宇都宮

宇都宮市立図書館  
UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

### ～読んだ本の感想より～

- 理子のためにうそをついている錯がとてもやさしいなと思いました。嘘百科の書きかたもおもしろいと思いました。
- 理子のクラスのじょうきょうが最初から少しずつ悪化していく中で、ぼくはこんなクラスにはしたくないなと思った。
- 話の中に六年一組のグループトークというところがあり、そのところも現実味を帯びていて少し怖かったです。
- 嘘か本当かはたしかに大切だけど、いちばん大切なのは、周りの人が気持ち良くいられることだと思った。
- 世界には、人を悲しませるうそだけではなくて、つかなくてはいけないうそもあるので、うそも悪いものではないと思いました。
- 理子は正義感が強くて、クラスの問題を解決しようとする姿に、おうえんしたくなった。

### 『あしたの幸福』 いとう みく／著（理論社）

- 事故で父をなくした主人公が本当のお母さんといっしょにくらすことになり、どんな気持ちなんだろうと思いがらよんだ！
- 自分を産んだお母さんとお父さんの再こん相手のお母さんと自分で暮らすなんて、おどろきました。でも、あの3人だからこそ上手くいくのかなとも思いました。
- どうしたらわたしがシアワセになれるかを自分でさがしていくというのが、とてもきょうかんできておもしろかった。
- 雨音さんと国吉さんは遠いようで近い位置にいるのかなと思った。3人はふしぎなバランスの人たちだけど、みんなで助けあっていきている気がした。
- 大人の発達しょうがいの大変さを知った。

### 『わたしの気になるあの子』 朝比奈 蓉子／作（ポプラ社）

- ふつうとはなにかということを考えさせられる本でした。
- 女の子がぼうずにするの?!とびっくりしたけれど、その子にはきちんと理由があってぼうずにしてたことや、なぜぼうずにしてはいけないの?というしつもんを考えさせられた。
- 校そくやジェンダーもんだいにたちむかおうとするすがたがすごいと思った。
- 詩音のお姉さんのように、周りの考え方を自分から変えていきたいと思いました。
- 瑠美奈は、詩音の気持ちを考えるためにぼうずにして、すごいと思った。

### 『食虫植物ジャングル』 萩原 弓佳／作（文研出版）

- 植物が巨大化したジャングルに迷いこんで、いろいろな植物につかまっていたけど、ぶじに帰ってこられて良かったと思いました。
- 食虫植物が一生存命生きていることがわかる本だった。
- 4人はぶじ元のせかいにもどれるのか、そしてみんなのねがいはかなうのかとときどきしながらよんだ。
- インコのピーカちゃんが、4人の仲を深めてくれて、4人は仲良くなれたので、「ピーカちゃんすごい!」と思った。
- 最初はバラバラだった主人公達も、最後は協力して様々なことを乗り越えていく場面がとても良いなと思いました。